

## 基礎・基本の定着を目指した授業の改善・工夫 「アクティブラーニングを活用して」

### I 主題設定の理由

中学保健体育部会では、昨年まで研究してきた体育分野における授業の効果的な指導法から今年度新たに「基礎・基本の定着を目指した授業の改善・工夫」に視点をあてた。学習指導要領において確かな学力を育成するためには各教科において「基礎・基本を確実に定着させることと、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等をはぐくむことが重要であり、学習方法の面でもバランスを重視する必要がある」ことが強調されている。指導方法や授業内容を工夫改善をすることにより、生徒がより理解しやすく、基礎基本の習得や、アクティブラーニングを有効に活用しながら質の高い授業の展開が可能と考える。授業実践や研究会を通し、教師自身も高い実践力を身に付ける必要があると考え研究を行ってきた。本年度はこの研究を柱にし、各校で課題を設定し、その解決に向けて継続して研究することが望ましいと考え、本主題を設定した。

### II 研究の内容

#### 1 研究のねらい

- (1) 授業実践を通して基礎・基本の定着を目指した授業の改善・工夫を考える。
- (2) アクティブラーニングを活用した授業実践及び研究をしていく。

#### 2 研究の概要

- (1) 年間2回の授業研究を通して、基礎・基本の定着を目指した授業について考える。  
〔1月「球技」(ハンドボール・ゴール型) 山梨北中学校 金森智絵教諭〕  
〔2月「ダンス」(現代的なリズムのダンス) 山梨南中学校 小沢隆広教諭〕
- (2) 各校による基礎・基本の定着を目指した授業の改善・工夫についての取り組みや実践を通しての情報交換、先進校の文献や資料等を参考に研究をおこなう。

#### 3 授業実践：1

- (1) 単元名 「球技」(ハンドボール ゴール型) 中学2年生
- (2) 授業者 山梨北中学校 金森智絵教諭
- (3) アクティブラーニング・基礎基本の定着に向けた取り組み

#### ○授業形態

- ・①一斉→②小グループ→③全体→④個人
- ・目標の確認(めあて)、課題の確認、チームの目指す姿、チームの課題を再考、修正し作戦を立てて課題解決につなげる
- ・小グループでの発表、アドバイスによりチームの課題を明らかにし次時に生かす
- ・グループの課題を共有し、チームの中の自分の役割について振り返る

### ○意識的な言語活動

学習カード，作戦ノート，作戦ボード，ICT機器等の活用。学習カードでは，「ペア」で相互評価を行う。作戦ノートは，チームで話し合った作戦を整理する，作戦ボードを使用し常にチームの作戦を確認する等，意識的に「話し合い」の機会を多く入れ，成果を発表する場面を設定した。ICT機器は，iPadからの情報を共有し，現在のチームを客観的に見るために使用。

### ○教材教具等の工夫

- ・思考の過程がわかるようなワークシート・ノートの作成
- ・生徒の意欲喚起が図れるような資料の提示，場の工夫

### 授業実践：2

- (1) 単元名 「ダンス（現代的なリズムのダンス）」（中学1年生女子）
- (2) 授業者 山梨南中学校 小沢隆広教諭
- (3) アクティブラーニング・基礎基本の定着に向けた取り組み

#### ①授業改善の視点を明確にし，理解・実践・評価する。

- ・授業の目標や取り組む課題を明確にし，その後の活動に入りやすいよう工夫する。
- ・話し合い，討論，練習や発表会などの言語活動を効果的に取り入れる。
- ・「ものとの対話（教材や資料など）」「人との対話」「自己との対話」を考える。
- ・他のグループや仲間を参考に自らの技能や活動を探究し，活用できるようにする。

#### ②主体的，対話的でより深い学びが成立するための単元計画の作成。

- ・グループ活動にスムーズに移行できるよう，オリエンテーション，一斉授業の充実を図る。
- ・質の高い魅力ある課題作りを，時間ごとに設定する。
- ・「個人」→「小グループ（ペアなど）」→「グループ」と段階的に学びをつなげるよう単元計画をたてる。
- ・目標を基にした評価（振り返り）を計画的に行う。

#### ③学習カードやICT機器の利用など，教材，教具等の工夫。

- ・学びの蓄積がしっかりと行えるような学習カードを作成する。
- ・生徒の意欲喚起が図れるような資料や教材を研究する。
- ・ICTが充実していない環境でも，生徒の深い学びが引き出されるよう工夫する

### Ⅲ 成果と課題

基礎・基本の定着を目指した授業の改善・工夫としてアクティブラーニングの活用に視点をあて研究を行ってきた。学校の規模や技能レベルに応じた独自の指導方法や授業内容などを学ぶことができ，充実した研究になった。各校がそれぞれ，授業改善の視点を明確にし，意識的な言語活動を取り入れ，さらに学習資料を有効的に活用することで生徒に基礎・基本の定着を図ることができた。教師側も知識や技能を強制的に教え込むのではなく，生徒主体の授業展開により，運動に積極的に取り組む姿勢が学べたと考える。

今後は，技能のポイントをもっと生徒に分かりやすく整理するとともに，生徒への指示の仕方も工夫，改善する必要がある。また，生徒が進んで運動に取り組み，基礎・基本を身に付け，高めるためには，授業の中で何を身に付けるのかを生徒自身が理解することが重要である。アクティブラーニングの「協働的な学び」の視点を生かし，協働的な学びの視点から教材化を図り，協働的に学ぶ活動を構成し，具体的な支援を行うような授業展開を行っていきたい。

〔部長 飯島 春奈〕